

平成 29 年 4 月 18 日

平成 28 年度 学校評価アンケート結果及び学校自己評価について

神戸大学附属中等教育学校

校長 藤田 裕嗣

昨年度ご協力いただいた「学校評価アンケート」結果及び「学校自己評価」についてお知らせします。全体としては、生徒評価はほぼ変動なし、保護者評価はわずかに上昇という結果になっています。一朝一夕に解決しない課題も多いのですが、教職員一同今年度も改善のための努力を惜しまない所存です。

1 生徒評価アンケート 回答数 766 回答率 96%

* 平均：下記換算をもとに相加平均を算出

(①そう思う：4点 ②ほぼそう思う：3点 ③あまりそう思わない：2点 ④そう思わない：1点)

	1年	2年	3年	4年	5年	平均	昨年	差異
Q1.自分は、楽しい学校生活を送っている。	3.7	3.5	3.2	3.2	3.1	3.3	3.4	-0.1
Q2.あいさつの習慣が身についている。	3.3	3.4	3.2			3.3	3.2	0.1
Q3.毎日の清掃をきちんとしている。	3.2	3.3	3.0			3.2	3.1	0.1
Q4.時間を守り、きめられた服装や正しい言葉遣いをしている。	3.3	3.3	3.2			3.2	3.1	0.1
Q2.学校のルールや社会的マナーを守ろうとしている。				3.3	3.2	3.2	3.3	0.0
Q3.将来の進路について、考えるようになった。				3.4	3.5	3.5	3.4	0.0
Q4.さまざまな取り組みを通して、神戸大学を身近に感じるようになった。				2.6	2.5	2.6	2.7	-0.1
Q5.授業には、積極的に参加している。	3.2	3.2	2.9	3.0	3.0	3.1	3.0	0.0
Q6.授業の内容や教え方を工夫している先生が多い。	3.2	3.3	2.8	2.7	2.8	3.0	2.9	0.0
Q7.学校では、グローバルな視点から考えたり学んだりする場がある。	3.5	3.5	3.2	3.0	3.0	3.2	3.2	0.1
Q8.学校には豊かな心や人の生き方について考えたり学んだりする場がある。	3.2	3.1	2.9	2.6	2.6	2.9	2.9	0.0
Q9.学校には命や人権の大切さについて考えたり学んだりする場がある。	3.3	3.0	2.8	2.5	2.4	2.8	2.8	0.0
Q10.Kobe・プロジェクト(総合学習)は、自分にとって大切な学習である。	3.4	3.4	3.0	2.7	2.7	3.0	3.0	0.1
Q11.自分の考えをまとめたり発表したりする機会に、しっかりと取り組んでいる。	3.2	3.4	3.1	3.0	2.9	3.1	3.1	0.1
Q12.地震や火災などが起こった場合、避難方法などどうすればよいかを教えてもらっている。	3.1	3.2	2.9	2.6	2.6	2.9	2.9	0.0
Q13.学校行事(宿泊行事を含む)は、自分自身が成長する機会になっている。	3.5	3.5	3.1	2.9	2.8	3.2	3.3	-0.1
Q14.生徒の自主活動(生徒会、学級、委員会等)には、積極的に参加し協力している。	2.9	3.0	2.8	2.8	2.7	2.8	2.8	0.0
Q15.クラブ活動に積極的に参加している。	3.5	3.2	2.5	2.7	2.5	2.9	2.9	0.0
Q16.先生は、的確に自分を評価してくれる。	3.2	3.3	2.7	2.7	2.6	2.9	2.9	0.0
Q17.先生は、いじめや生活・学習の問題について対応してくれる。	3.2	3.2	2.7	2.7	2.4	2.8	2.8	0.0
Q18.学校の施設・設備が充実している	3.0	2.9	2.7	2.4	2.3	2.7	2.8	-0.2

詳細は、平成 28 年度学校評価 生徒アンケート(前期課程) 1年2年3年
 平成 28 年度学校評価 生徒アンケート(後期課程) 4年 5年

【小括】

- ①昨年度に比して、大きな変動は見られません。6項目で0.1上昇、3項目で0.1下降、施設設備評価が0.2ポイント下がっています。
- ②1・2年生では、「Q1. 自分は、楽しい学校生活を送っている。」「Q7. 学校では、グローバルな視点から考えたり学んだりする場がある。」「Q13. 学校行事（宿泊行事を含む）は、自分自身が成長する機会になっている。」をはじめ、KP・クラブ等で高い評価が散見されます。
- ③3・4・5年では、「Q15. クラブ活動に積極的に参加している。」「Q16. 先生は、的確に自分を評価してくれる。」「Q17. 先生は、いじめや生活・学習の問題について対応してくれる。」の項目について、2.4～2.7と低位です。
- ④4・5年生で「Q8. 学校には豊かな心や人の生き方について考えたり学んだりする場がある。」「Q9. 学校には命や人権の大切さについて考えたり学んだりする場がある。」の人間性に関わる項目が、2.4～2.6の低評価になっており、改善が進んでいないことが読み取れます。
- ⑤「Q12. 地震や火災などが起こった場合、避難方法などどうすればよいかを教えてもらっている。」も、4・5年生で同様に低くなっています。
- ⑥学年進行で、「評価」が下がるのは全国的に一般的傾向です。成長と共にメタ認知（自分の思考や行動自体を対象として客観的に把握し認識する）能力が上がるためともいわれていますが、同時に卒業した3年生と違って、4・5年生の場合「自己肯定観」の低下なども気になるところです。
- ⑦「避難指示の徹底」に加え、「人間性」を育てる教育が課題です。「豊かな心や人の生き方」「命や人権の大切さ」を育む機会は十分設けているつもりですが、教育として言語化する作業が遅れていると思われる。前期課程では「道徳」の教科化を前に、本校独自のスタイルを考え実践準備に入っています。後期課程でも、HRや特別活動等を通して強化を図る予定です。

2 保護者評価アンケート 回答数601 回答率76%

①そう思う ②ほぼそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない

アンケート内容	1年	2年	3年	4年	5年	全体	昨年	差異
Q1. 学校は、教育目標や教育方針をわかりやすく保護者に伝えている。	3.2	3.3	3.1	3.1	3.2	3.2	3.1	0.1
Q2. 学校の教育方針に賛同している。	3.3	3.4	3.2	3.2	3.3	3.3	3.2	0.1
Q3. 学校の情報は、通信・ホームページ・メール配信や懇談会などでよく伝えられる	3.2	3.3	3.1	3.0	3.2	3.2	3.1	0.1
Q4. 学校は、子どもたちが安心して学べる環境づくりをしている。	3.2	3.3	3.1	3.2	3.2	3.2	3.2	0.0
Q5. 学校は、子どもたちが主体的に取り組む特色ある教育活動を行っている。	3.4	3.5	3.3	3.3	3.3	3.4	3.3	0.0
Q6. 学校は、グローバルな視点に基づく教育を行っている。	3.3	3.5	3.2	3.3	3.3	3.3	3.3	0.0
Q7. 学校では、授業や文化祭・合唱コンクールなどの学校参観がしやすい。	3.3	3.5	3.3	3.2	3.2	3.3	3.2	0.1
Q8. 教員は、わかる授業・生徒の学習意欲を引き出す授業に努めている。	2.9	3.1	2.8	2.7	2.7	2.9	2.8	0.1
Q9. 教員は、家庭連絡や保護者との意思疎通を図ろうと努めている。	3.0	3.2	2.8	2.8	2.8	3.0	2.9	0.1
Q10. 教員は、子どもの悩みや健康について気を配り、子どものことを理解しようと努めている。	3.0	3.2	2.8	2.9	2.8	3.0	2.9	0.1

Q11.教員は、保護者の来校や電話に対して、ていねいな対応をしている。	3.4	3.6	3.3	3.3	3.3	3.4	3.3	0.1
Q12.教員は、子どもの誤った行動に対して適切な指導をしている。	3.0	3.2	2.9	2.9	2.9	3.0	3.0	0.0
Q13.教員は、子どもの努力や能力を適切に評価している。	3.0	3.2	2.9	2.9	2.8	3.0	3.0	0.0
Q14.子どもは、あいさつ・言葉遣い・服装など、生活の基本が身に付いている。	3.1	3.1	3.0	3.1	3.1	3.1	3.0	0.1
Q15.子どもは、学校にたくさんの友だちがいると言っている。	3.2	3.3	3.2	3.2	3.1	3.2	3.3	0.0
Q16.子どもは、生徒会や委員会活動に積極的に参加したり協力したりしている。	2.8	3.0	2.8	2.8	2.7	2.8	2.8	0.0
Q17. 子どもは、クラブ活動に積極的に参加している。	3.0	3.3	2.7	3.1	2.6	3.0	2.9	0.1
Q18.この1年間で、子どもなりに人間的に成長したことが感じられる。	3.4	3.5	3.3	3.5	3.3	3.4	3.3	0.1

詳細は、平成 27 年度学校評価 保護者アンケート

【小括】

- ①昨年度と大きな変化はありませんが、11項目0.1上がっています。
- ②全体として学校の基本方針への賛同「Q2. 学校の教育方針に賛同している」（肯定的評価93%，平均値3.3）が読み取れます。中でも「Q5. 学校は、子どもたちが主体的に取り組む特色ある教育活動を行っている。」、「Q11. 教員は、保護者の来校や電話に対して、ていねいな対応をしている。」の項目が、「Q18. この1年間で、子どもなりに人間的に成長したことが感じられる。」と並んで、肯定的評価93%，評価平均3.4と高くなっています。
- ③保護者評価も一般的に学年進行でやや下がる傾向にありますが、生徒の変化に比べると大きくはありません。わずかに改善があるとはいえ、「Q8. 教員は、わかる授業・生徒の学習意欲を引き出す授業に努めている。」（肯定的評価73%，平均値2.8）「Q16. 子どもは、生徒会や委員会活動に積極的に参加し協力。」「Q17. 子どもは、クラブ活動に積極的に参加している。」等の評価の低い項目も散見され、課題と受け止めています。

平成 28 年度 学校自己評価について

3月に実施した「生徒」「保護者」「教職員」（非公開：28年度は有意に上昇）の学校評価アンケート結果と学校経営計画の自己評価についてお知らせします。また、平成29年度「学校経営計画」につきましても、近日中にお知らせします。

■ 学校自己評価について

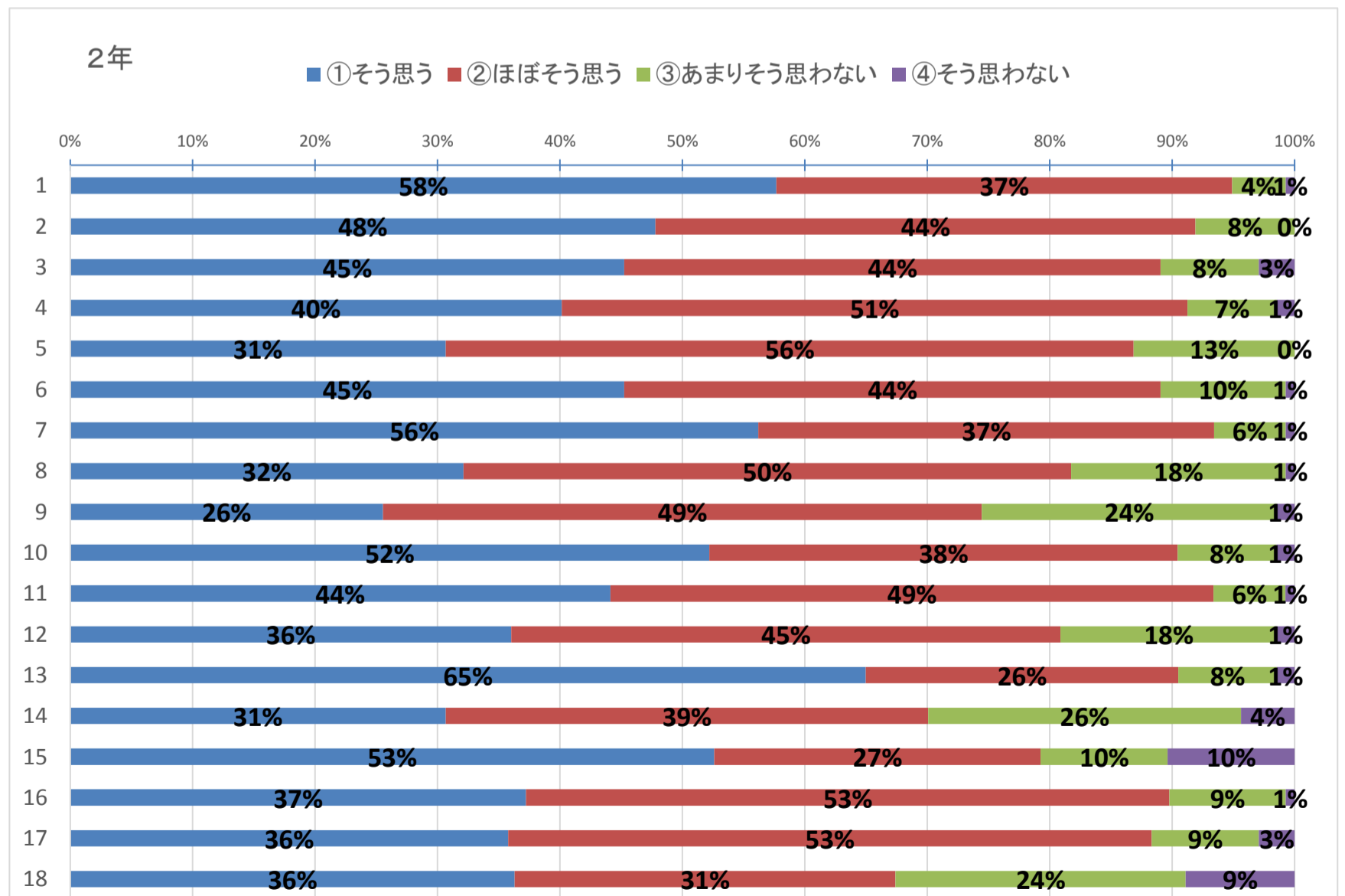
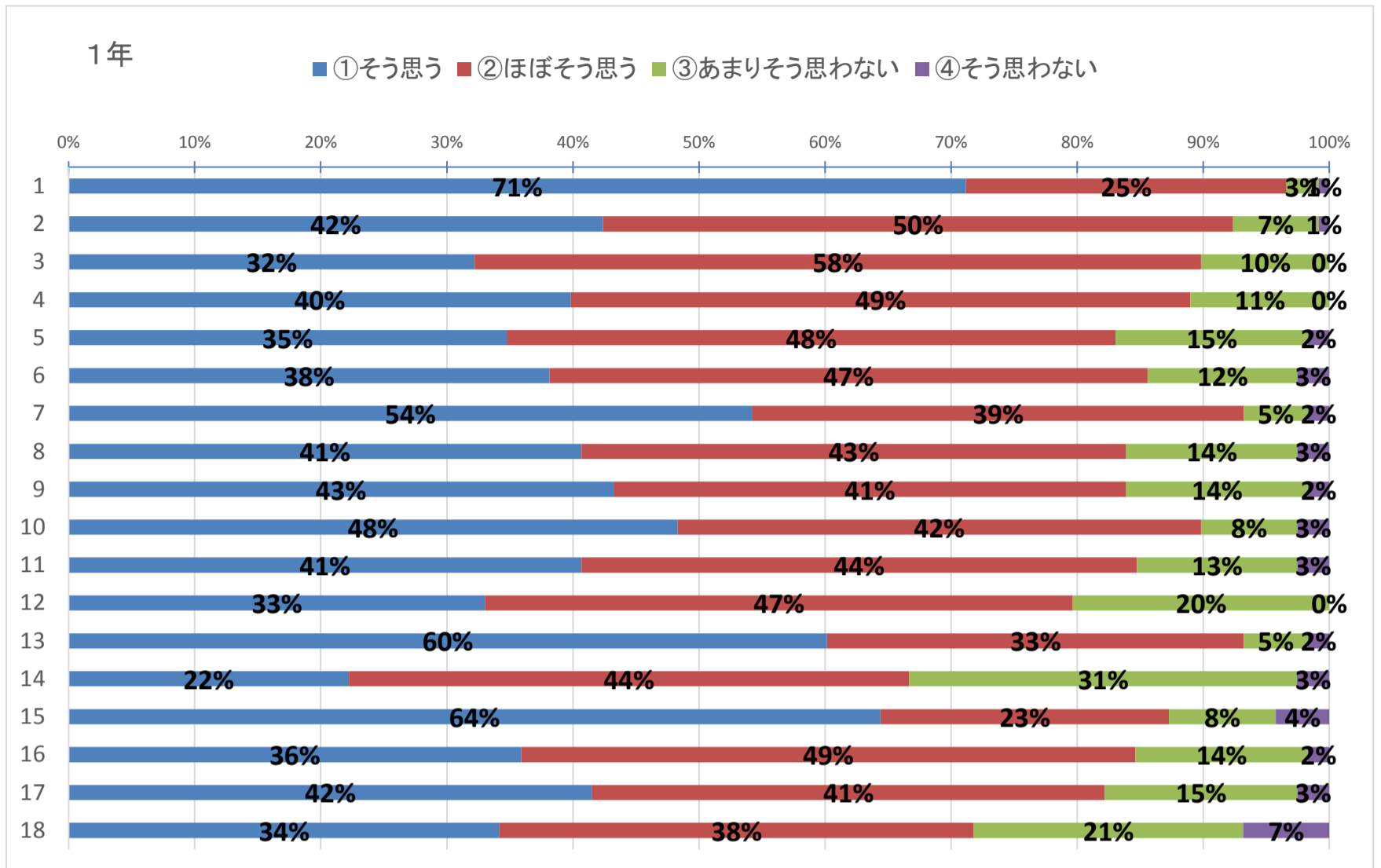
学校経営計画について、項目ごとに下記基準にもとづき評価しています。

- | |
|---|
| <p>A 目標を超過達成した。新規企画を充分達成した。</p> <p>B 目標をほぼ達成した。</p> <p>C 目標を一部達成できなかった。</p> <p>D 目標をほぼ達成できなかった。</p> <p>F 外的な要因等により、目標に取組ことが不可能であった。</p> |
|---|

下線部は、明確な課題とした点。

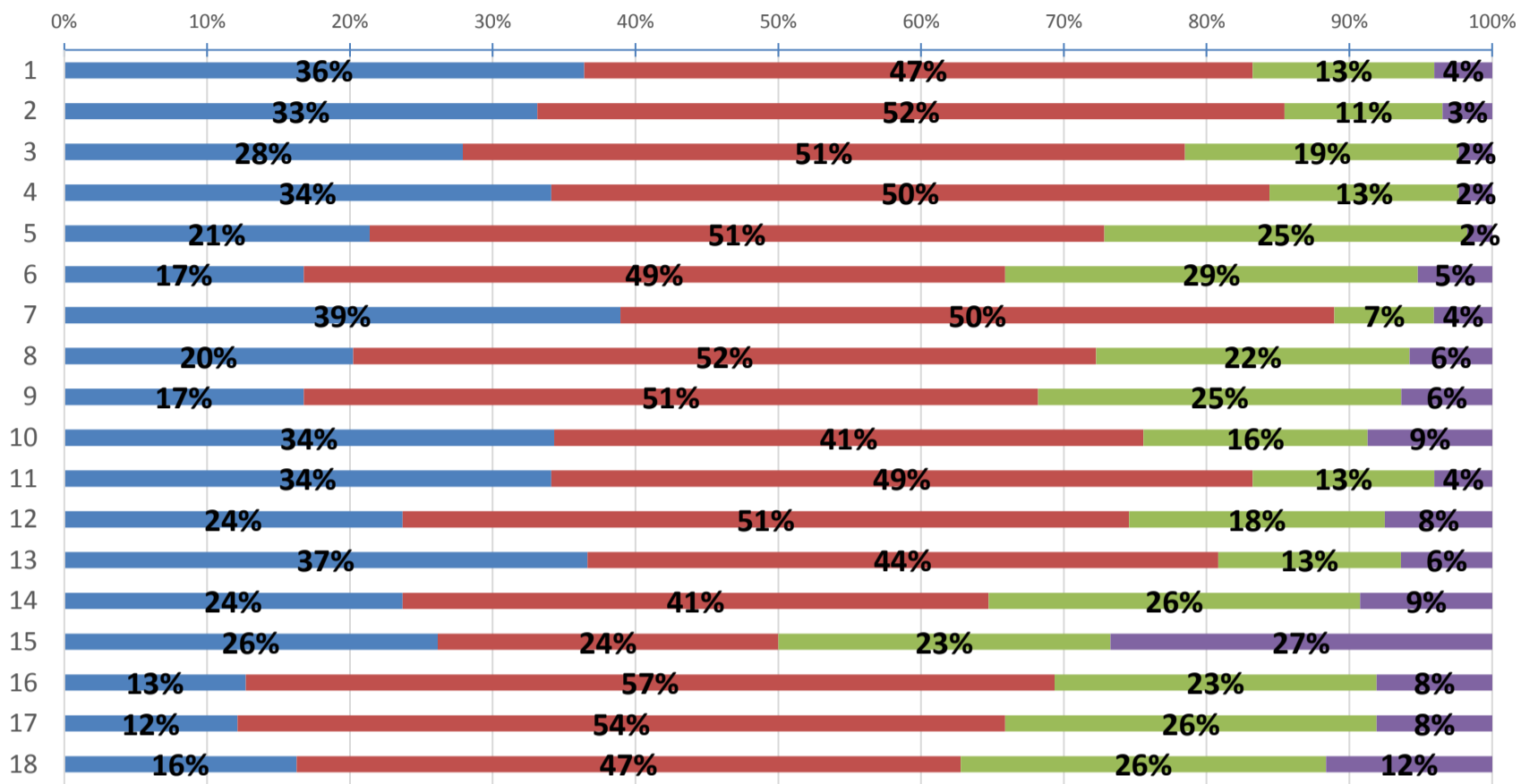
領域	テーマ	方策等	評価
学習指導	1 授業改善	授業改善に取り組む。全専任教員は授業アンケートを実施し、 <u>評価3.0以上を実現する。</u> ICT教育の抜本的改革を計画し、無線ランを活用した授業を積極的に行う。	C B
	2 教育課程	新教育課程を実施する。また新指導要領の動向をふまえながら教科等で汎用的能力について深める。新科目「国際理解」及び「ESD」を円滑実施する。	A
	3 協同学習	協同学習について研究開発事業やSGHとも連携しつつ、理論的に再整理すると共に、後期課程での実践を広げる。	B
	4 Kobe プロ	KPシラバスの書式を統一すると共に、実績を共有できるよう資料整理等を行う。図書拡充を図り、Kobeプロの部門ごとの教員コンファレンスを実施する。	B
	5 食育指導	ESDの一貫として教科の枠をこえた食育の充実を図り、給食を授業時間の枠内で実施する。アレルギー対策としてエビペン研修を行なう。	B
生徒指導	6 自主活動	生徒会執行部活動及び生徒による諸行事（文化祭・体育祭・合唱祭等）を支援する。執行部との副校長懇談会を継続する。また、次年度日程変更に伴う準備体制を支援する。	A
	7 宿泊行事	学校行事改革として、2年奈良・4年宿泊研修を廃止する。GAPではSGHとの関連を明確にしつつ、各宿泊行事を成功させる。学校行事を検討すると共に、ケアンズ修学旅行の準備を行う。	A
	8 部活動支援	各部への顧問配置を増やす。生徒等の意見・要望を集約し、部活動の改善について検討する。外部コーチ制を拡充し、部室増設構想を策定する。	B
	9 生活指導	シティズンシップ育成に関して「互いを認めあう」をキーワードに、道徳・HR等を通して、 <u>学校としての組織的な教育を行う。</u>	C
	10 教育相談	スクールカウンセラーと連携した教育相談事業を継続する。QU活用を定着させ、個々の生徒に応じた学習支援体制を継続する。	B
	11 生徒福利	購買部設置2年目にあたり、生徒会・保護者の要望を踏まえ、必要な改善を検討する。神戸大生協の運営をサポートする。	B
進路指導	12 進路指導	学習困難生に対するていねいな相談体制を整備する。後期課程での進路に関する指導を綿密に行うと共に、各種資料の分析などを通して、情報の組織的共有を図る。	A
	13 進路保障	6年では、生徒の進路希望実現に向けた進路指導・相談を丁寧に行うと共に、進路保障に尽力する。	A
	14 キャリア教育	KUトライアルの実施時期を検討する。国際教育との関連を踏まえつつ全学年を通してキャリア教育に力を入れる。	B
	15 進路広報	進路情報の公開を継続すると共に、学年保護者会等を通して、前期課程も含めた生徒・保護者への進路広報活動を強化する。	B
研究政策	16 SGH 研究開発	SGH指定2年目。事業を飛躍的に発展させ報告会・公開授業研究会等を成功させる。また、検証評価体制を整備すると共に、各種事業ごとの評価を実施する。	A
	17 SGH 課題研究	SGH「課題研究」については、卒業研究の枠組みを利用して実施する。教員の指導体制を強化すると共に、4領域ごとの大学の支援体制を整備する。	B
	18 SGH	SGH指定を受けてGAPを計画的に実施し、GAPマイレージ制を整	A

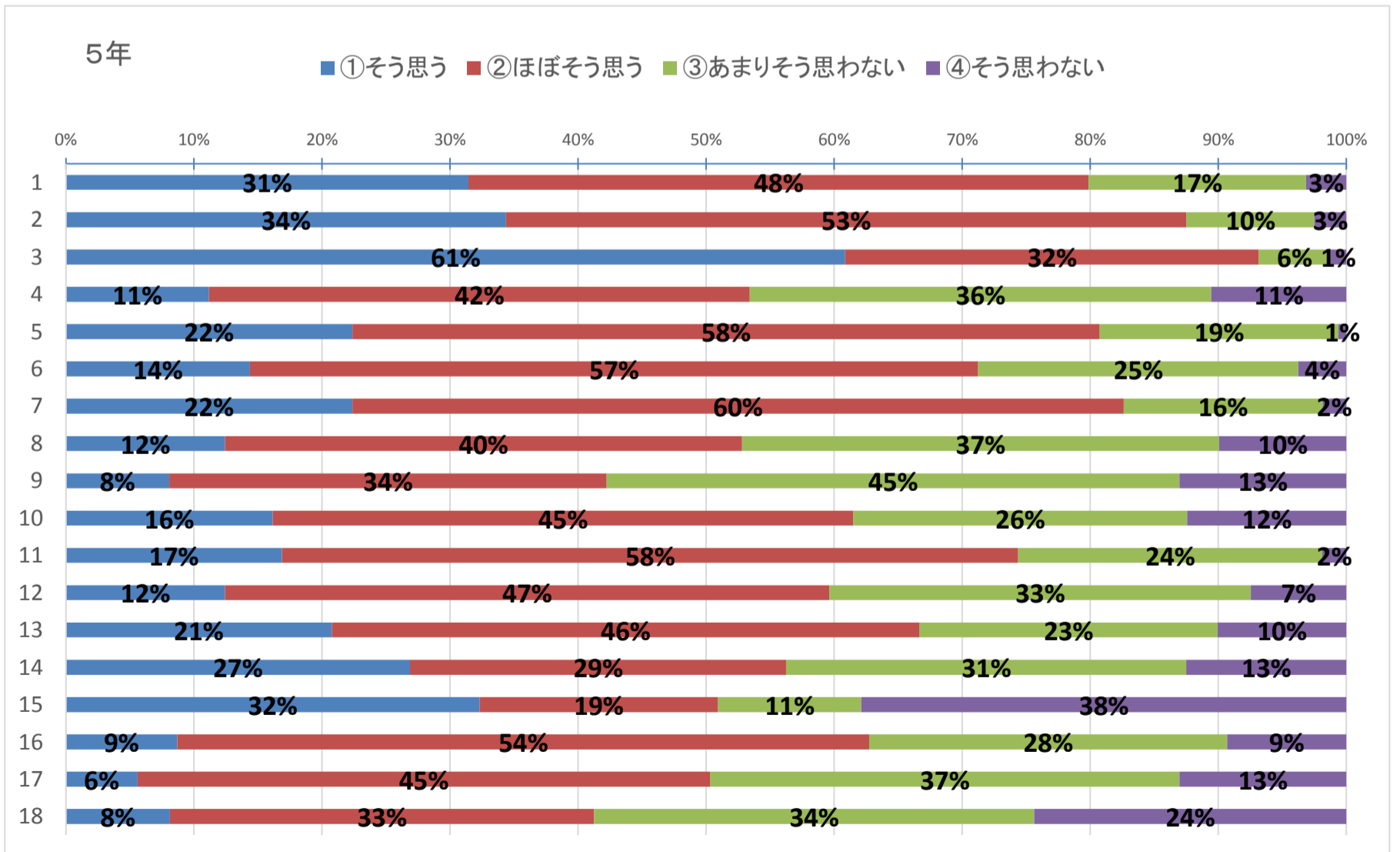
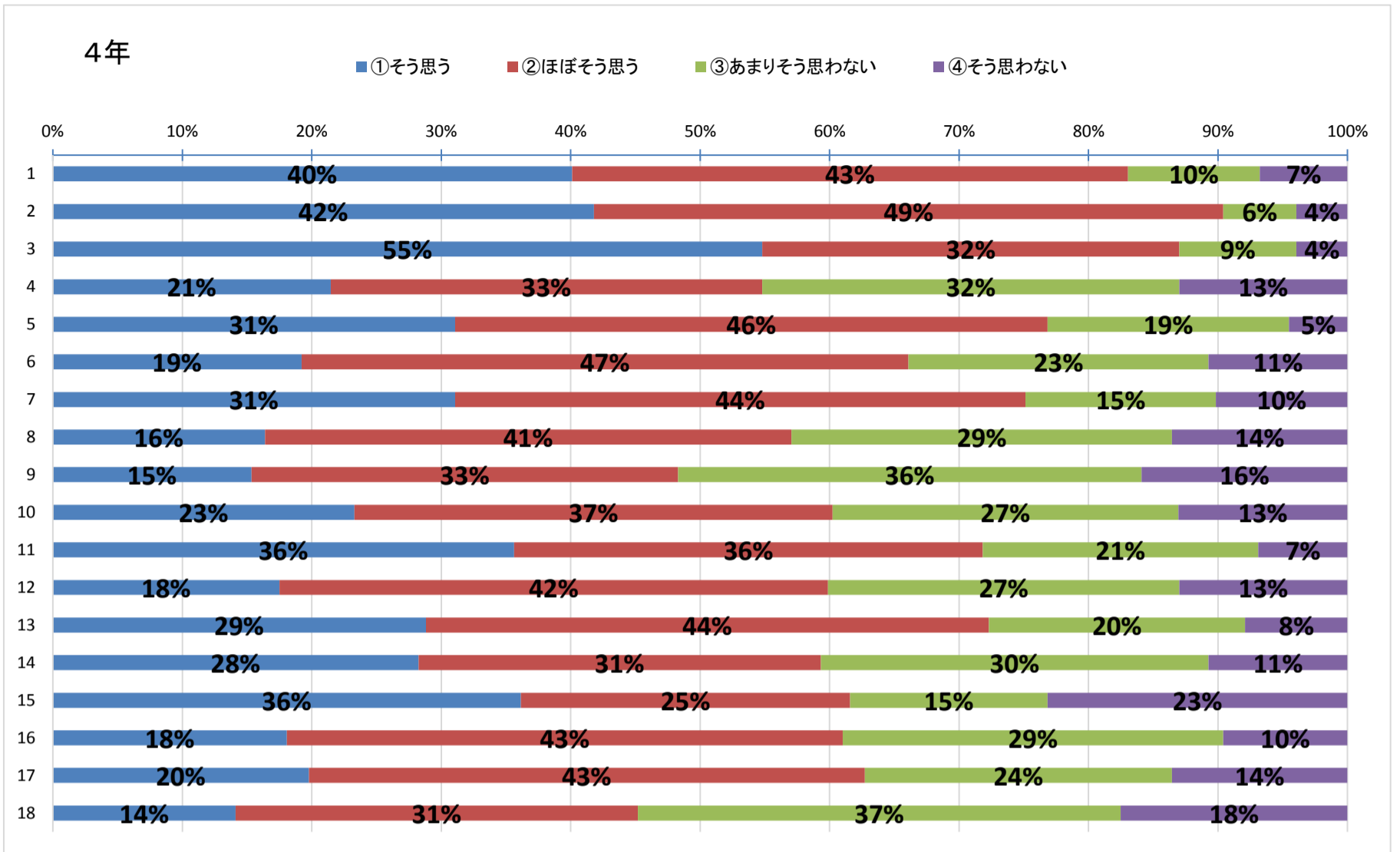
	国際交流	備する。交流校協定締結（シアトル ICS, 高雄師範大附, ハノイ国家外大附）及び留学生受入れ等を円滑に進める。	
	19 地歴研究開発	研究開発学校指定4年次にあたり, 新科目「地理基礎」, 「歴史基礎」の研究開発を本格実施し検証する。学会等との連携を深め, 運営指導委員会, 公開授業研究会等を円滑に実施する。	A
	20 研究活動	公開授業研究会をSGH報告会と一体的に進める。ユネスコスクール加盟をふまえ, ESDの視点を強化すると共に, 発達科学部のESD事業に協力する。	B
危機 管理	21 安全管理 安全教育	防災訓練を徹底する。神戸市の支援を得て, 防災備蓄物資の拡充を図る。教員対象の研修, 生徒対象の感染症対策, 防犯・防災・衛生教育を行う。	B
	22 情報管理	情報管理の改善を図ると共に, 必要な情報機器・システムの整備を行う。SGH及び英文ホームページを円滑に運営する。	B
	23 施設整備	第二アリーナ空調設置, 舞台照明の改善など設備の整備を行う。年度別教室配備計画を策定・実施する。必要な什器を揃え, ICT教育環境を充実させる。	F B
学校 経営	24 人事計画	交流人事に関する新基本方針を策定する。昇給に関する新ルールを継続実施する。ALTの常勤化を行う。	B
	25 教員研修	課題検討委員会を設置すると共に, 授業力向上, ハラスメント対策等9回の研修を実施する。同僚性を高める場として, 校内の授業公開等を活用する。各種研修出張を支援する。	A
	26 財政措置	急減期に対応するため, 借入金を継続すると共に, 緊縮財政を継続する。教育環境整備費と施設説示充実費の寄付金額について教育後援会と共に検討する。	B
	27 事務室連携	事務室の改組に伴う財政, 職員会議参加, <u>電話対応等をはじめとする事務室との一体的運営を定着させる。</u>	F
	28 保護者対応	学年保護者会の持ち方をPTA共催にする。PTSA（生徒が参加する形態）の活動を推進すると共に, 保護者と学校が情報共有できるよう工夫する。	B
	29 適性検査広報	オープンスクール, 文化祭招待, 適性検査説明会及び連絡進学説明会等を通して, 入学適性検査の広報活動を徹底する。帰国入検の日程を変更する。	A
	30 適性検査実施	昨年度の総括をふまえ, 問題作成及び連絡検査及び一般適性検査を円滑に実施する。実施に向けた準備体制を整える。	B
大学 連携	31 高大連携	SGH 高大連携委員会と連携し, 各種事業を円滑に進める。神戸大学との高大接続入試を実施すると共に, 検証作業を進める。	A
	32 小中連携	連絡進学に関する広報活動を円滑に進めると共に, 実施後の検証を行う。一貫教育センター（仮称）を立ち上げると共に, 英語教育をはじめとする小中等連携を進める。	B

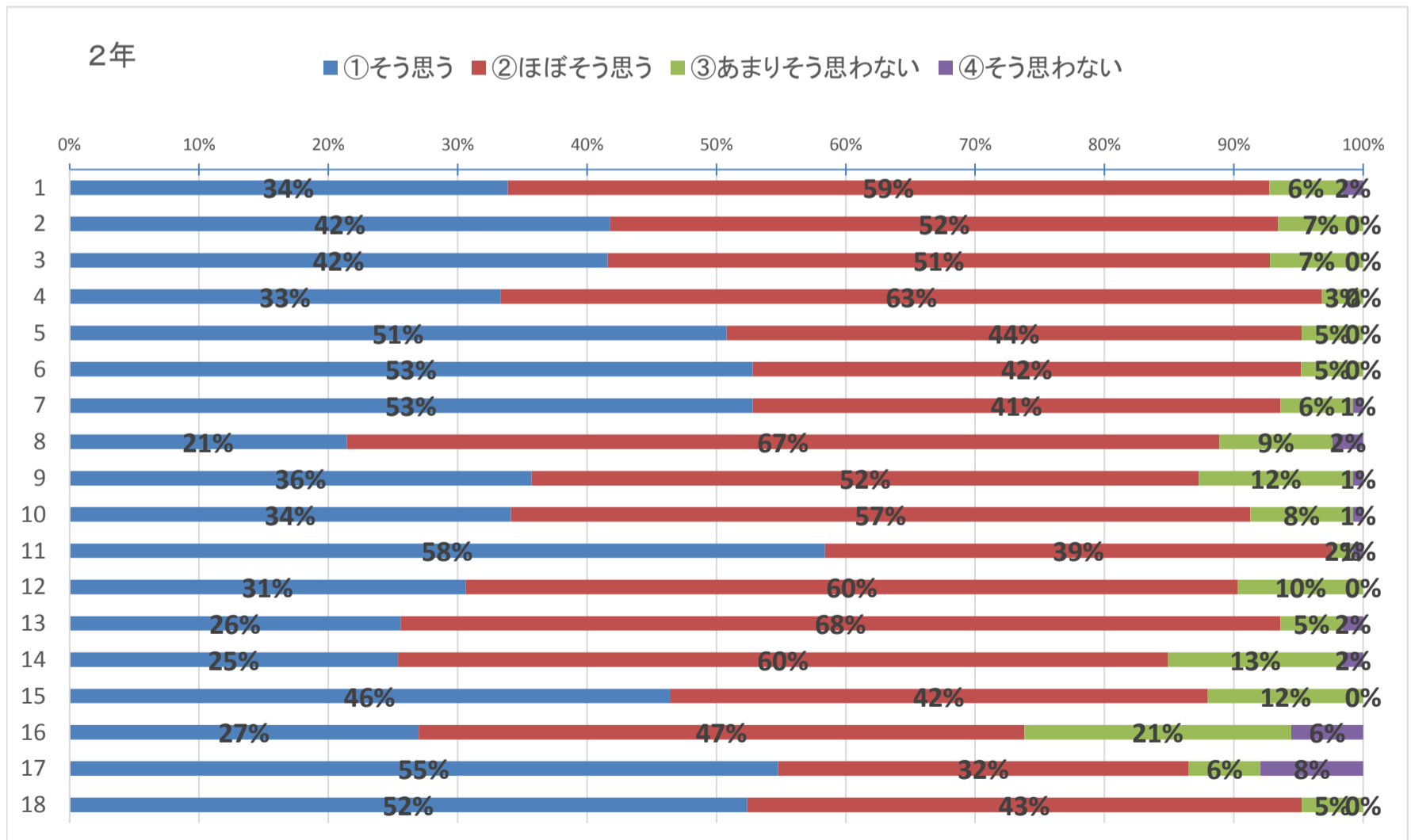
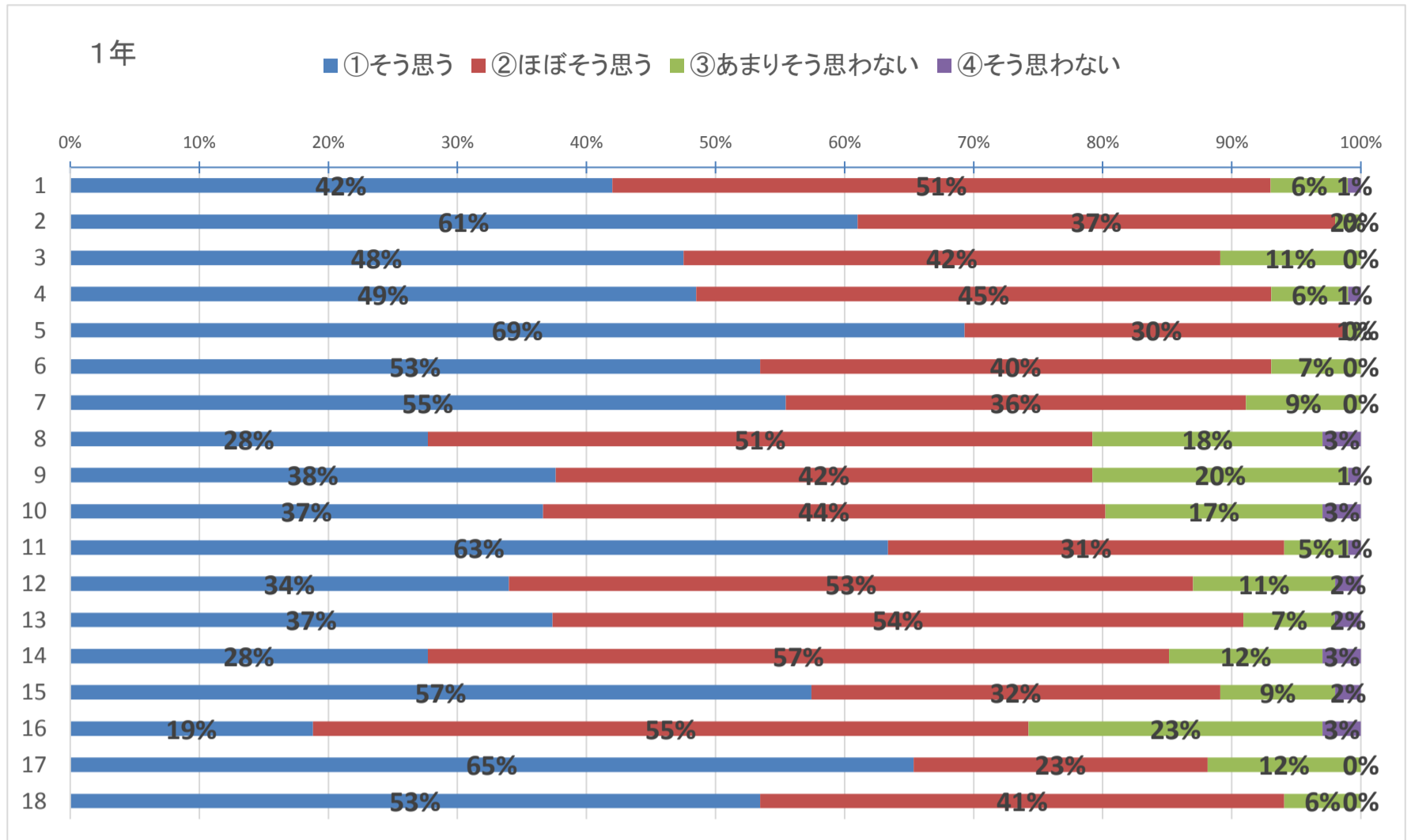


3年

■ ①そう思う ■ ②ほぼそう思う ■ ③あまりそう思わない ■ ④そう思わない

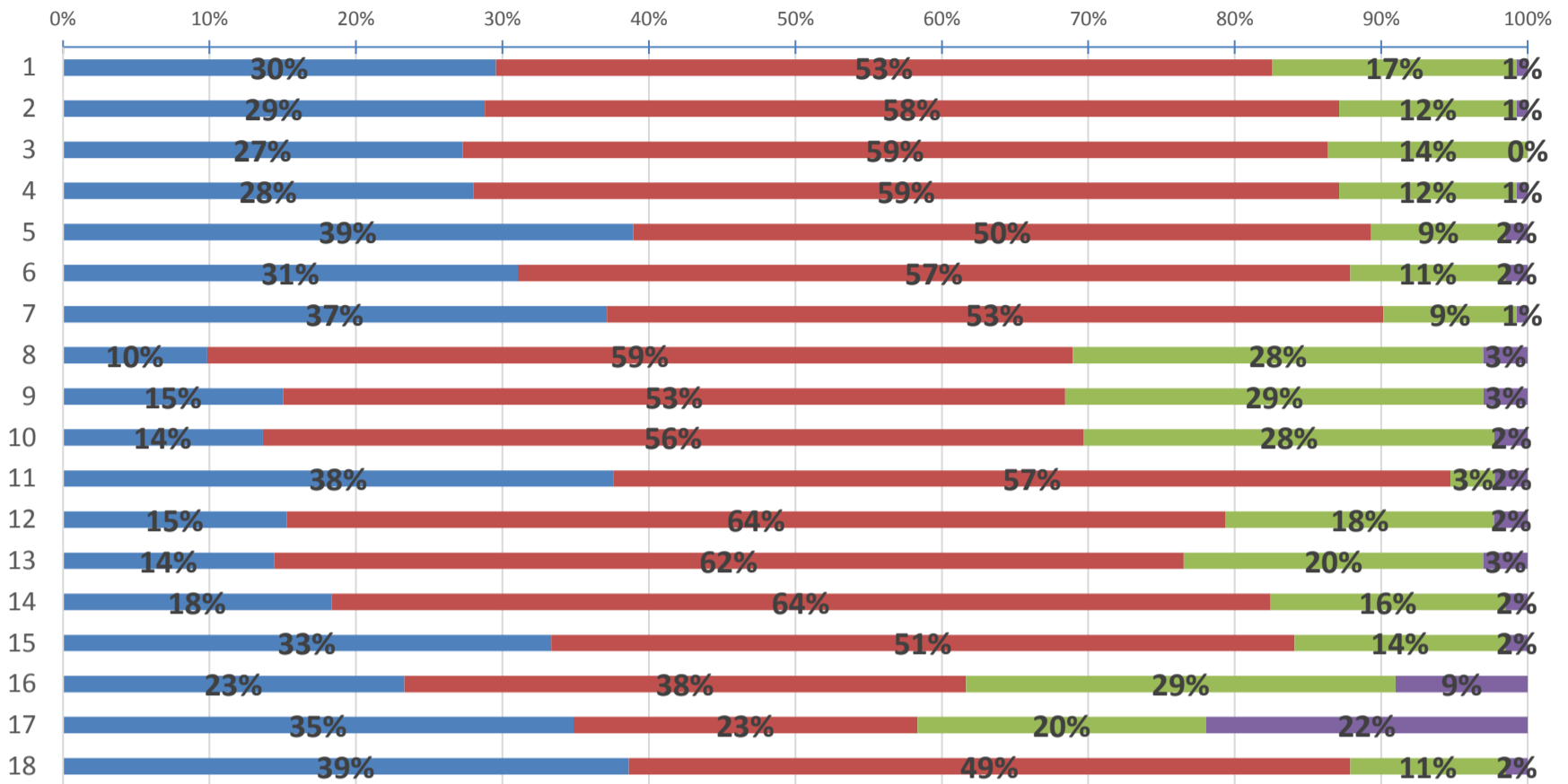






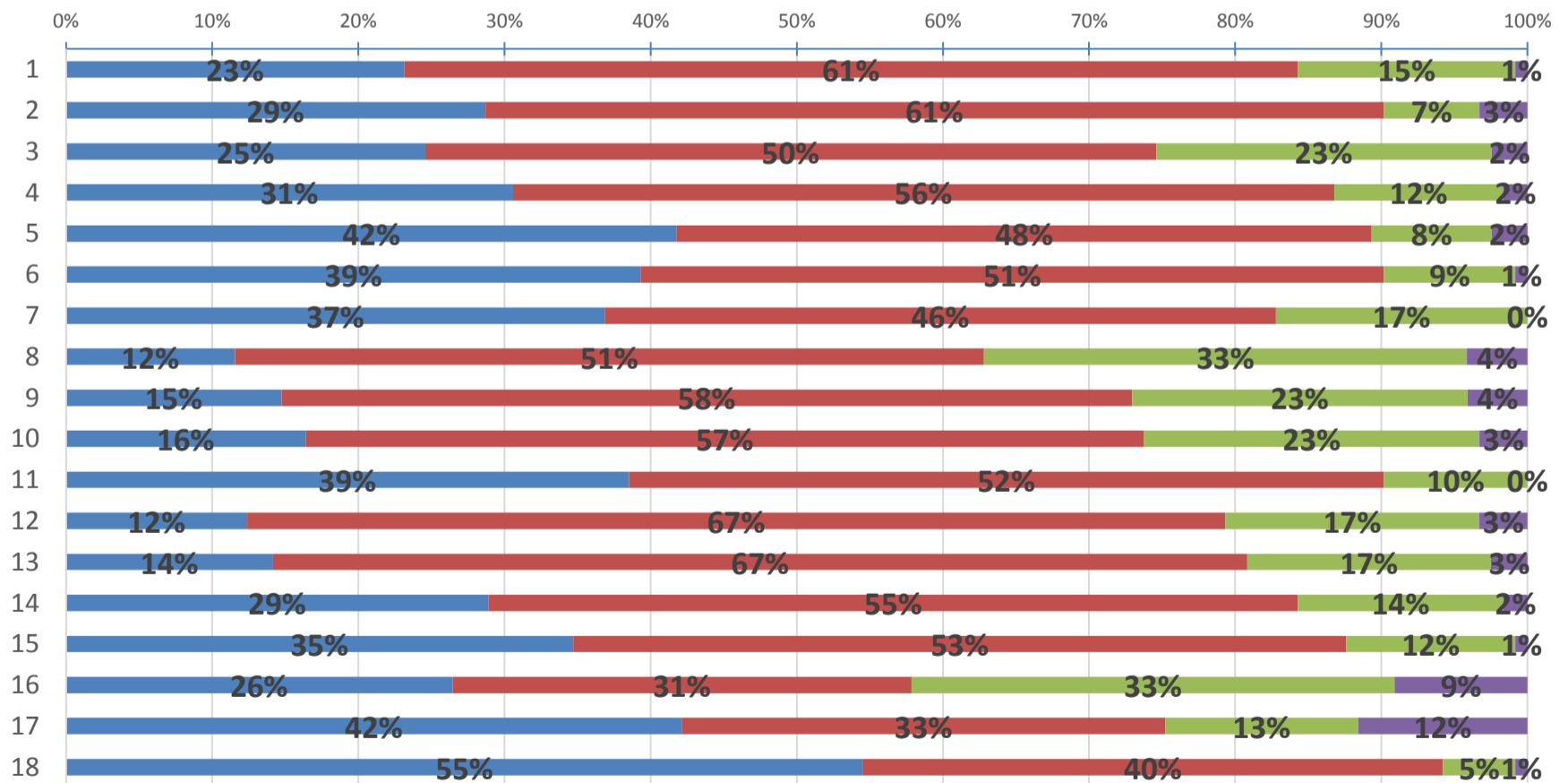
3年

■ ① そう思う ■ ② ほぼそう思う ■ ③ あまりそう思わない ■ ④ そう思わない



4年

■ ① そう思う ■ ② ほぼそう思う ■ ③ あまりそう思わない ■ ④ そう思わない



5年

■①そう思う ■②ほぼそう思う ■③あまりそう思わない ■④そう思わない

